

# 長期戦略:テーマ 「特長ある一貫教育の創出」

提出日 2021年 2月 9日

担当部署

## II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	小菅常任理事 (一貫教育支援) (法人部)	実施計画の 担当部署	学長室・高等部・高大接続センター・千里国 際高等部
-----------------------	-----------------------------	---------------	------------------------------

### 1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
4-(4)-⑤ “AI活用 for SDGs”「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」 ～Society 5.0に向けた WWLC リーディング・プロジェクト～	2019年度	2021年度	必要なし	不要
<b>内容</b>				
<p>拠点校である関西学院高等部はこれまでの SGH 事業の取り組みや教育資源を活用し、“AI活用 for SDGs”「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」の構想名に基づく先進的なカリキュラムの研究開発・実践を行う。</p> <p>また、管理機関である学校法人関西学院は持続可能な取組への支援等による体制整備を行うとともに、スーパーグローバル大学である関西学院大学が中心となり、拠点校をはじめ、国内外の連携校、国外の大学、企業、国際機関等と協働し、AIの活用によりSDGsの課題を解決できる能力を涵養することを通じて、Society 5.0を牽引し世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したイノベティブなグローバル人材の育成を目的とする。</p> <p>2019年度は、管理機関である学校法人関西学院、スーパーグローバル大学である関西学院大学が、WWL構想の目的を達成するため、拠点校をはじめ全国の連携校が形成するアドバンスラーニングネットワーク(以下、ALネットワークと記す)において、以下のプログラムを提供する。</p> <p>1) WWL・AI活用人材育成プログラム、2)SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEAM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣等)、3)アドバンスプレーメント(単位履修・高大連携科目)の検討、4)Harvard College Japan InitiativeX関西学院大学ワークショップ、5)高校生公開討論会、6)関西学院世界市民明石塾、7)探究甲子園(仮称)、8)高校生国際交流のつどい</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	【管理機関】 アクティブラーニングプログラム事業の実施	予定したアクティブラーニングプログラム(以下、ALプログラムと記す)事業を予定通り実施したかどうかの実績		
指標2	【高等部】 コンピテンシー評価	ツール: AiGROW 対象生徒:「グローバル探究 BASIC」受講の1年生 計測項目:「課題設定」「論理的思考」「地球市民」項目のコンピテンシー評価		
指標3	【千里国際高等部】 探究型授業における識者へのインタビュー実施人数	探究型授業における、識者へのインタビュー実施人数/年		

## 目標1&lt;指標1&gt;【管理機関】ALプログラム事業の実施

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	ALプログラム事業の実施	ALプログラム事業の実施	ALプログラム事業の実施	ALプログラム事業の実施		
実績	WWL・SGHX探究甲子園はCOVID-19の感染拡大防止のため中止となったが、その他の事業は予定通り実施。					

## 目標2&lt;指標2&gt;【高等部】コンピテンシー評価

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	—	受講後に評価ポイントが上昇した生徒が60%	受講後に評価ポイントが上昇した生徒が70%			
実績	—					

## 目標3&lt;指標3&gt;【千里国際高等部】探究型授業における識者へのインタビュー実施人数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	—	20名	20名			
実績	—					

## 2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
【管理機関】 アドバンスネットワーク によるプログラムの提供	策定段階	1)WWL・AI活用人材育成プログラム 2)SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEAM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣等) 3)アドバンスプレースメント(単位履修・高大連携科目)の検討 4)Harvard College Japan InitiativeX関西学院大学ワークショップ 5)高校生公開討論会 6)関西学院世界市民明石塾 7)探究甲子園(仮称) 8)高校生国際交流のつどい	1)WWL・AI活用人材育成プログラム ①AI活用人材育成講座(ストリーミング)(通年) ②AI活用人材育成プログラム・ワークショップ(8月) ③AI活用人材育成プログラム・ネットコミュニケーション(通年・新規) ④Sci-Tech リサーチ・フォーラム(AI 活用部門・新規) 2)SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣等) 3)WWL 校対象のアドバンスプレースメント(単位履修・高大連携科目)の検討 4)Harvard College Japan Initiative X 関西学院大学ワークショップ 5)高校生公開討論会 6)関西学院世界市民明石塾 7)WWLx探究甲子園 8)高校生国際交流のつどい	1)WWL・AI活用人材育成プログラム ①AI活用人材育成講座(ストリーミング)(通年) ②AI活用人材育成プログラム・ワークショップ(8月) ③AI活用人材育成プログラム・ネットコミュニケーション(通年・新規) ④Sci-Tech リサーチ・フォーラム(AI 活用部門・新規) 2)SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣等) 3)WWL 校対象のアドバンスプレースメント(単位履修・高大連携科目)の検討 4)Harvard College Japan Initiative X 関西学院大学ワークショップ 5)高校生公開討論会 6)関西学院世界市民明石塾 7)WWLx探究甲子園 8)高校生国際交流のつどい	1)WWL・AI活用人材育成プログラム ①AI活用人材育成講座(ストリーミング)(通年) ②Sci-Tech リサーチ・フォーラム(AI 活用部門・新規) 2)SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣等) 3)WWL 校対象のアドバンスプレースメント(単位履修・高大連携科目)の検討 4)Harvard College Japan Initiative X 関西学院大学ワークショップ 5)高校生公開討論会 6)関西学院世界市民明石塾 7)WWLx探究甲子園 8)高校生国際交流のつどい	1)WWL・AI活用人材育成プログラム ①AI活用人材育成講座(ストリーミング)(通年) ②Sci-Tech リサーチ・フォーラム(AI 活用部門・新規) 2)SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣等) 3)WWL 校対象のアドバンスプレースメント(単位履修・高大連携科目)の検討 4)Harvard College Japan Initiative X 関西学院大学ワークショップ 5)高校生公開討論会 6)関西学院世界市民明石塾 7)WWx探究甲子園 8)高校生国際交流のつどい
	2021年3月末段階	1)～6)を実施 7)はCOVID-19対策のため中止、8)は契約前のため 2019年度は対象外	—	—		

		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階	1)WWL・AI活用人材育成プログラム ①AI活用人材育成講座(ストリーミング)(通年) ②Sci-Tech リサーチ・フォーラム(AI 活用部門・新規) 2)SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣等) 3)WWL 校対象のアドバンストプレースメント(単位履修・高大連携科目)の検討 4)Harvard College Japan Initiative X 関西学院大学ワークショップ 5)高校生公開討論会 6)関西学院世界市民明石塾 7)WWx探究甲子園 8)高校生国際交流のつどい	1)WWL・AI活用人材育成プログラム ①AI活用人材育成講座(ストリーミング)(通年) ②Sci-Tech リサーチ・フォーラム(AI 活用部門・新規) 2)SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣等) 3)WWL 校対象のアドバンストプレースメント(単位履修・高大連携科目)の検討 4)Harvard College Japan Initiative X 関西学院大学ワークショップ 5)高校生公開討論会 6)関西学院世界市民明石塾 7)WWx探究甲子園 8)高校生国際交流のつどい	1)WWL・AI活用人材育成プログラム ①AI活用人材育成講座(ストリーミング)(通年) ②Sci-Tech リサーチ・フォーラム(AI 活用部門・新規) 2)SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣等) 3)WWL 校対象のアドバンストプレースメント(単位履修・高大連携科目)の検討 4)Harvard College Japan Initiative X 関西学院大学ワークショップ 5)高校生公開討論会 6)関西学院世界市民明石塾 7)WWx探究甲子園 8)高校生国際交流のつどい	1)WWL・AI活用人材育成プログラム ①AI活用人材育成講座(ストリーミング)(通年) ②Sci-Tech リサーチ・フォーラム(AI 活用部門・新規) 2)SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣等) 3)WWL 校対象のアドバンストプレースメント(単位履修・高大連携科目)の検討 4)Harvard College Japan Initiative X 関西学院大学ワークショップ 5)高校生公開討論会 6)関西学院世界市民明石塾 7)WWx探究甲子園 8)高校生国際交流のつどい	1)WWL・AI活用人材育成プログラム ①AI活用人材育成講座(ストリーミング)(通年) ②Sci-Tech リサーチ・フォーラム(AI 活用部門・新規) 2)SDGs・地域課題等社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣等) 3)WWL 校対象のアドバンストプレースメント(単位履修・高大連携科目)の検討 4)Harvard College Japan Initiative X 関西学院大学ワークショップ 5)高校生公開討論会 6)関西学院世界市民明石塾 7)WWx探究甲子園 8)高校生国際交流のつどい
	2021 年 3 月末段階					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
【高等部】 拠点校によるプログラムの提供	策定段階	—	1 年次プログラムのブラッシュアップ、2 年次選択必修科目(「AI 活用演習」「グローバルスタディ」「ハンズオンラーニング)」の実施	1 年次、2 年次プログラムのブラッシュアップ、2 年次選択必修科目の発展の科目の実施 国際会議(平和構築に向けた国際シンポジウム)の開催	—	—
	2021 年 3 月末段階	—	—	—		

		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-	
	策定段階						
	2021 年 3 月末 段階						
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
【千里口際高等部】 探究型授業におけるフ ィールドスタディの実施	策定段階	—	新コーディネータによるフ ィールドスタディの実施とそのブラ ッシュアップ	フィールドスタディの実施とそ のブラッシュアップ	—	—	
	2021 年 3 月末 段階	—	—	—			
			2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階						
	2021 年 3 月末 段階						

## 3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】

非公開

経費 単位:万円

2019 年度 承認

2020 年度 承認

2021 年度 承認

2022 年度

非公開

人員・人件費 単位:万円

2019 年度 承認

2020 年度 承認

2021 年度 承認

2022 年度

非公開

経費 単位:万円	2023 年度	2024 年度	2025 年度	左記以降
非公開				
人員・人件費 単位:万円	2023 年度	2024 年度	2025 年度	左記以降
非公開				

## 4. 進捗状況・得られた成果

2019年度	<p>【ALプログラムについて】</p> <p>AIの活用によりSDGsの課題を解決できる能力を涵養することを通じて、Society 5.0を牽引し世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したイノベティブなグローバル人材の育成を支援するために、ALプログラムにおいて、WWL・AI活用人材育成プログラムのストーリーミング教材を10本製作し、Ed-Tech（リクルートのスタディサプリ）を介して、拠点校・連携校生徒に提供した。これはWWL構築支援事業における先導的で挑戦的な取り組みであり、政府の総合改革イノベーション戦略におけるAI活用人材育成の方針とも合致する内容である。</p> <p>ストーリーミングに加え、各生徒の課題研究を実践的なものにするためにワークショップを開催し、大学教員派遣事業、課題研究に関する発表会等の高大連携事業を展開した。</p> <p>【拠点校プログラムについて】</p> <p>今年度は今後の活動の基盤づくりに時間をかけた1年であった。「SGH事業での課題と反省を踏まえたプランニング」を基軸に、「全ての教職員が同じゴールを見据えた上で、学校を変革するために本事業に取り組むためのマインドセットの醸成」と「本事業の指定終了後も、人的にも経済的にも自走できるための体制づくり」に取り組んだ。今後、連携校等へ本校の取り組みをプロトタイプとして広げていくためにも、今年度はこのような根本的な見直しの時とした。</p> <p>【千里国際高等部 探求型授業におけるフィールドスタディの実施について】</p> <p>2019年度はSGHプログラムの最終年度であったため、本実施計画としての取り組みはなかったが、次年度からのフィールドスタディ実施を視野に入れた様々な活動を行うことができた。</p>
2020年度	
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	



## 5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	<p>【A Lプログラムについて】 令和2年3月現在、連携校として26校がA Lネットワークに加盟しており、これらの高等学校の取り組みは①拠点校と共同でプログラム開発に参加する高等学校と、②高校毎の課題研究にAI活用の視点を盛り込むため、プログラムを活用する高等学校の2つに大別される。各高等学校においてテーマを定めた課題研究に取り組んでいるなか、「AI for SDGs」の視点で課題研究に取り組む生徒の支援の課題が浮き彫りとなった。</p> <p>【拠点校プログラムについて】（拠点校高等部） 解決すべきSDGsのテーマ「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」に焦点をあて、先進的なカリキュラムの研究開発・実践を行う。その目的を達成するために、令和元年度に引き続き以下の取り組みを行う。</p>
2020 年度	<p>【A Lプログラムについて】 2019年度で浮き彫りとなった課題に対応するため、昨年度からスタートしたA I活用人材育成講座（ストリーミング）（通年）に加えて、A I活用人材育成プログラム・ワークショップを1年次対象、2年次対象で内容を設定して実施するほか、A I活用人材育成プログラム・ネットコミュニケーション（通年・新規）として連携校生徒向けにSNSを活用して課題研究のアドバイスをを行うことを計画している。しかしながら、A I活用人材育成を担当する人的資源が不足しているため、担当の巳波教授に大きな負荷がかかっており。人員の補充が急務である。</p> <p>【拠点校（高等部）によるプログラムの提供】 2年目となる2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による影響のため、当初の計画通りの実施が困難な状況であるが、1年生対象の「グローバル探究BASIC」と2年生対象の「グローバル探究A AI活用」、「グローバル探究B ハンズオンラーニング」、「グローバル探究C グローバルスタディ」を実施する。</p> <p>【千里国際高等部 探求型授業におけるフィールドスタディの実施について】 5年間のSGHとしての取り組みを終え、2020年度はSGC(Super Global Citizenship Program)と名付けたプログラムに取り組む。5年間で構築した「2年生全員がフィールドスタディに参加して識者にインタビューを行い、それをもとに個人の研究活動に取り組む」ことは、SGHの5年間からの継続実施であるが、大きな変更点として、総合探究として全教員の関わりで実施していたものを、各教科から提供する授業として実施することが挙げられる。教科を越えた横の連携を保つために「総合探究科主任」のポジションを新設した。新しい体制において、質を落とさないフィールドスタディ（＝識者へのインタビューを核とする）を継続することが今年度の一番の課題である。</p> <p>春学期に「フィールドスタディ」と名付けた各種授業の中から選択した授業を2年生生徒全員が履修したが、新型コロナウイルス蔓延の影響で春学期は全てがオンライン授業となり、学期中のフィールドスタディは実現しなかった。夏休み、秋学期にどのように延期が可能となるかは未定である。</p>
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

## 6. 学院総合企画会議の基本方針

2019年度	WWL事業における補助金対象外である、[高等部]海外交流アドバイザー、カリキュラムアドバイザー、[高大接続センター]国際交流・課題解決等研究会運営費を認めます。 また、WWL 事業に関連する、[高等部]グローバルリーダーズプログラム実施経費、[千里国際高等部]探究型プログラム実施経費も認めます。
2020年度	WWL事業における、[高等部]海外交流アドバイザー等、[高大接続センター]国際交流・課題解決等研究会運営費等を認めます。また、WWL 事業に関連する、[千里国際高等部]探究型プログラム実施経費も認めます。
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	

## 7. Total Review の結果

## 【フェーズ I (2019～2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部においては、探求型授業の拡大とそれを評価するツールを制定した。今後、その成果を検証する必要がある。</li> <li>・管理機関(大学)として、連携校へのプログラム提供やイベントの共同開催など、継続する必要がある。</li> <li>・採択に伴いカリキュラムを改編したため、増員した教員体制を保持していく必要がある。</li> <li>・千里国際高等部においては、SGH 終了後も学院が財政支援し、「総合探究」科目の充実を図った。</li> </ul>	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスト WWL を見据えた実施体制等の検討</li> </ul>

## 【フェーズ II (2022～2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	